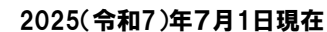


JR



※札幌トンネル札幌工区の覆工延長は二次インバート延長を示します。

※現時点で想定している発生量に対する確保割合。発生量は地質や工事の状況により変更となる可能性があります。



渡島トンネル(台場山)
長尺ボーリング実施状況



渡島トンネル(南鶉)
トンネル掘削状況



写真① 札幌車両基地高架橋(札幌市)



写真② 札幌トンネル桑園工区(札幌市)



写真③ 新小樽(仮称)駅高架橋(小樽市)



写真④ 明治高架橋(赤井川村)



写真⑤ 琴平高架橋(倶知安町)



写真⑥ 倶知安駅高架橋(倶知安町)



写真⑦ 岩尾別高架橋(倶知安町)



写真⑧ 宮田高架橋(里見工区)(ニセコ町)



撮影位置図



写真⑨ 宮田高架橋(宮田工区)(三ツ町)



写真⑩ 静狩路盤(長万部町)



写真⑪ 栄原高架橋(長万部町)



写真⑫ 平里高架橋(長万部町)



写真⑬ 長万部駅高架橋(長万部町)



写真⑭ 新八雲(仮称)駅高架橋(八雲町)



写真⑮ 大新高架橋(八雲町)



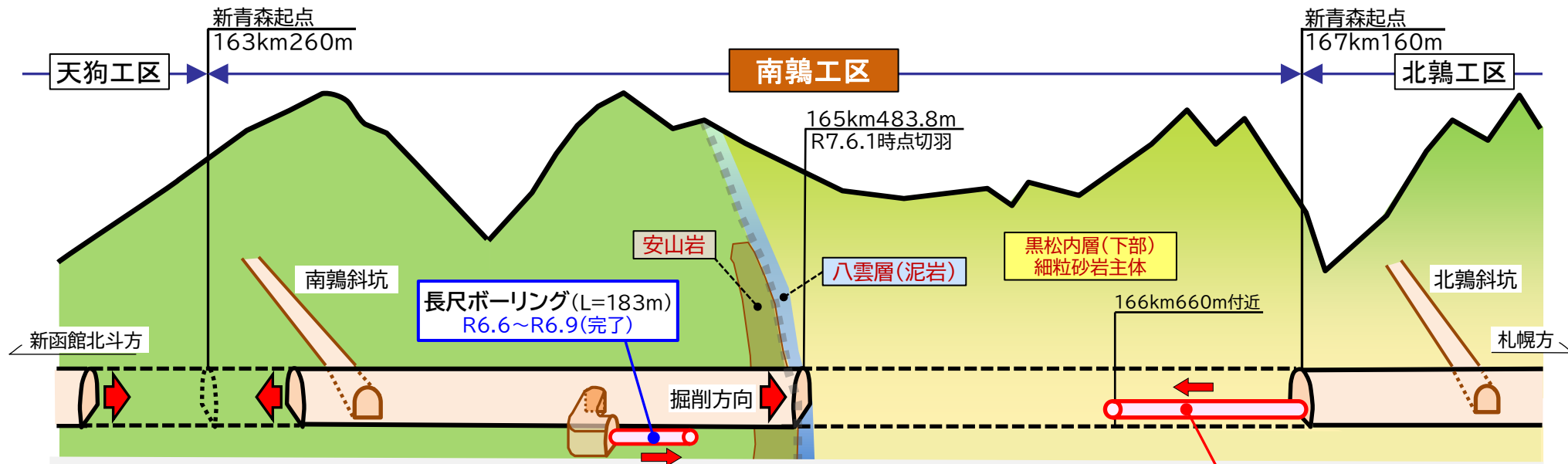
写真⑯ 市渡高架橋(北斗市)



撮影位置図



- 地質不良が続いている渡島トンネルの南鶉工区において、前方の地質状況を早期に把握し、今後の掘削見通しの検討に資するため、北鶉工区側から長尺ボーリング調査(L=約500m)を実施しました。
- 現在、ボーリングコアの分析中。



北鶉工区からの長尺ボーリング実施状況

長尺ボーリング(L=約500m)
R7.3~R7.5(完了)

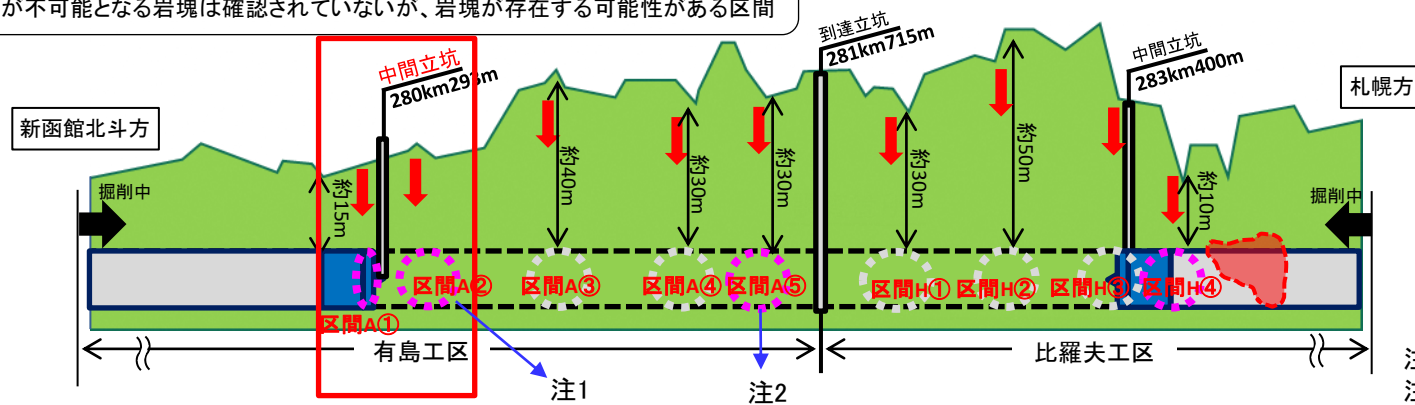
工法:ロータリーワイヤーライン工法(注)

(注)ロータリーワイヤーライン工法とは、コアと呼ばれる円筒状の地質サンプルを連続的に採取する工法です。

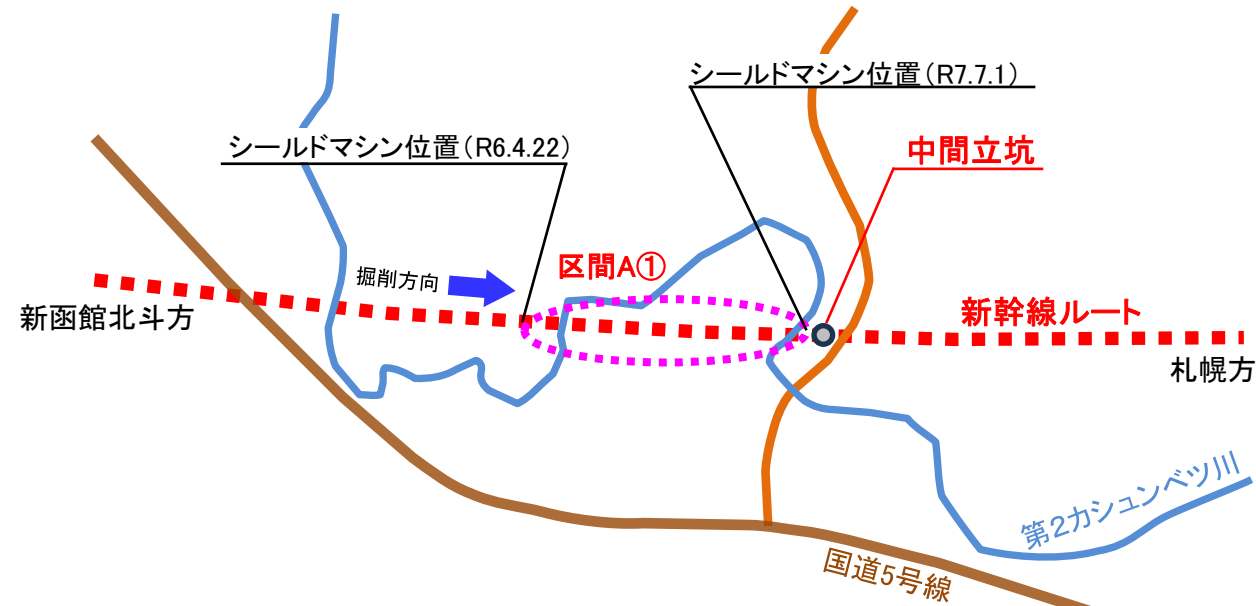
○令和6年4月22日に岩塊に遭遇し掘削停止して以降、地上からの岩塊撤去作業と、シールドマシンで掘削可能かの確認を行いながらシールドマシンを進めておりましたが、令和7年7月1日に区間A①を通過し、中間立坑に到達しました。
○今後、中間立坑においてシールドマシンのビット交換作業を行い、来春頃再発進の予定です。

凡 例

- 岩塊存在区間
- 岩塊の有無を判定するための地上からのボーリング(9区間)
- 現時点で掘進が不可能となる岩塊は確認されていないが、岩塊が存在する可能性がある区間

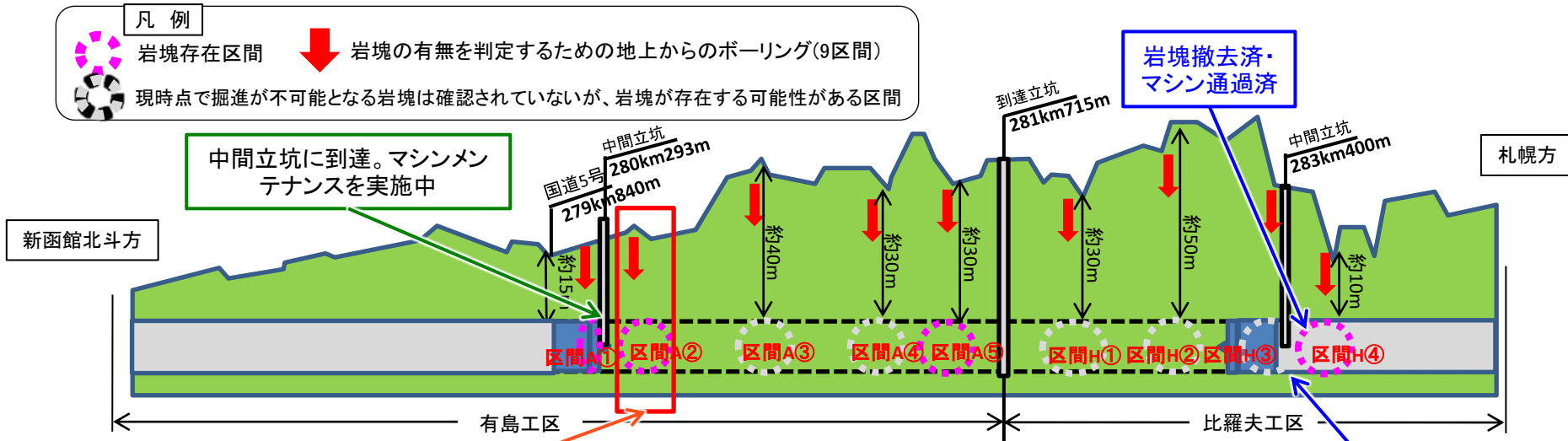


注1: 地上から岩塊撤去中
注2: 到達立坑から撤去予定



岩塊撤去の進捗状況(羊蹄トンネル)

- 令和4年度に実施した弾性波探査の結果、9箇所掘進に影響する可能性のある岩塊の存在を確認。(図中の区間A①～H④)
- 区間A①では、掘進停止の原因となった岩塊を撤去し、シールドマシンが7/1中間立坑に到達。マシンメンテナンスを実施中。
- 令和4～5年度の地上からのボーリング調査の結果、区間A②、A⑤、H④において、シールドマシンによる掘進が停止するおそれがある岩塊の存在を確認。このうち、区間A②の岩塊は、令和6年5月より地上から撤去中(令和7年6月より撤去範囲を拡大しており、令和7年6月30日時点で114本の撤去完了)、区間A⑤の岩塊は、今後到達立坑から撤去予定、区間H④の岩塊は地上から撤去済。区間H③は岩塊無し。
- 残りの区間では、地上からのボーリング調査の結果では、シールドマシンによる掘進が不可能となる岩塊は確認されていない。



岩塊撤去状況



撤去された岩塊



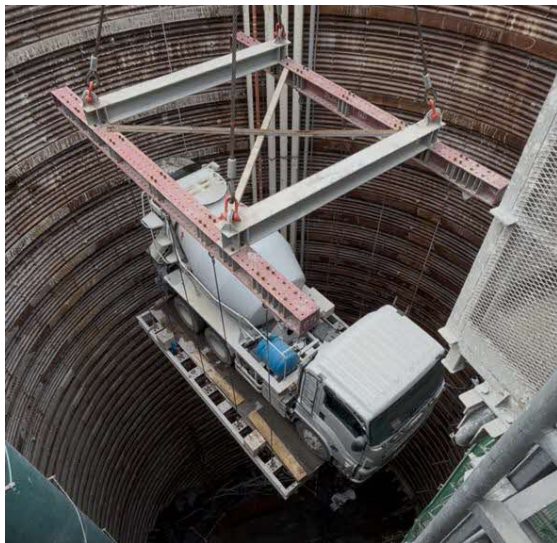
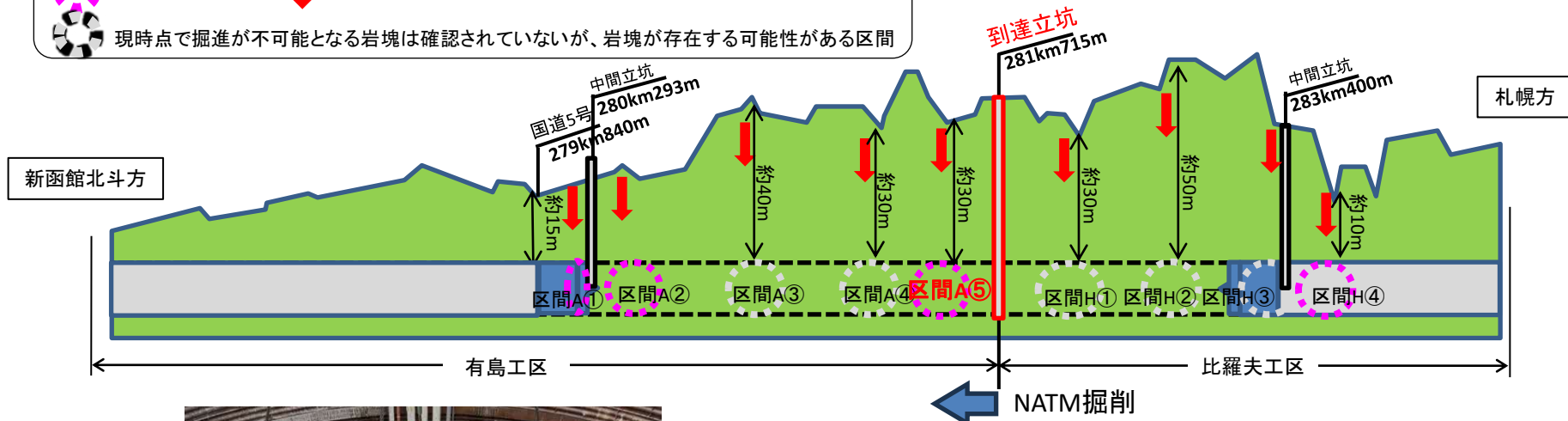
中間立坑でのシールドマシンの到達状況

羊蹄トンネル(有島)工区の岩塊撤去状況【区間A⑤】

○岩塊が存在すると想定してる区間A⑤における岩塊撤去について、令和7年2月より到達立坑よりNATM掘削を開始。
今後、岩塊を撤去予定。

凡 例

- 岩塊存在区間
- 岩塊の有無を判定するための地上からのボーリング(9区間)
- 現時点で掘進が不可能となる岩塊は確認されていないが、岩塊が存在する可能性がある区間



トラックミキサー車入坑状況(到達立坑部(地上部))



NATM掘削状況